

目次 「学生の確保の見通し等を記載した書類」

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
(1)	学生の確保の見通し	1
1)	定員充足の見込み	1
2)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
3)	学生納付金の設定の考え方	4
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2	人材需要の動向等社会の要請	6
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	6
(2)	社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	7

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

1) 定員充足の見込み

本研究科博士後期課程の入学定員の設定にあたっては、他の国公立大学大学院美術系研究科（9 研究科）における博士後期課程の定員設定状況を参考にするとともに、本研究科博士後期課程への進学意向に関するアンケート調査結果、本研究科修士課程修了生の他大学大学院博士後期課程への進学状況、他の国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の志願動向及び定員充足状況を勘案し、入学定員は3人とした。

他の国公立大学大学院美術系研究科（9 研究科）における博士後期課程の定員設定状況を見ると（資料1 国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の入学定員）、9 研究科の平均は7.8人、基礎となる修士課程（博士前期課程）の入学定員に対する博士後期課程の入学定員の割合の平均は16.6%である。また、入学定員が多い東京芸術大学大学院美術研究科(25人)と京都市立芸術大学大学院美術研究科(16人)を除く7研究科の入学定員の平均は4.1人、修士課程の入学定員に対する割合の平均は15.6%である。本研究科博士後期課程の入学定員は3人であり、修士課程の入学定員(20人)に対する割合は15.0%であることから、他の国公立大学大学院美術系研究科と同規模の定員設定である。

本研究科博士後期課程への進学意向に関するアンケート調査結果では、回答者69人のうち21人が「進学したい」と回答している。（資料2 博士後期課程 設置に関するアンケート（卒業生対象）集計結果）また、平成13年度に開設した本研究科修士課程の修了生（総数282人）について、これまでに他大学大学院の博士後期課程に進学した者が確認できるだけで17人いる。（資料3 博士課程への進学状況）

他の国公立大学大学院美術系研究科（9 研究科）における博士後期課程の過去3年間の志願動向及び入学定員充足率を見ると、志願倍率の平均は毎年1.0倍を超えている。また、入学定員充足率は年度により変動はあるものの、入学定員が多い2研究科を除く7研究科の平均入学者数は、平成29年度は4.0人、平成30年度は2.8人、平成31年度は3.6人である。（資料4 国公立大学大学院美術系研究科博士後

期課程の志願動向及び入学定員充足率)

これらのことから、本研究科博士後期課程の入学定員 3 人については、継続的に十分充足可能であると考えている。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 本研究科博士後期課程に関するアンケート調査結果

平成 30 年 9 月、本研究科博士後期課程に関するアンケート調査として『岐阜県情報科学芸術大学院大学博士後期課程設置に関するアンケート』を実施した。調査対象は、本学大学院修士課程修了生と、平成 8 年（1996 年）に設置され、本学の前身である専修学校の岐阜県国際情報科学芸術アカデミー（平成 23 年度（2011 年度）廃止）の卒業生である。本学大学院修士課程修了生 282 人と岐阜県国際情報科学芸術アカデミー卒業生 462 人の合計 744 人のうち、連絡先が確認できた 458 人に対してメールにより調査を実施し、69 人から回答を得た。なお、アンケート調査においては、本学のことを情報科学芸術大学院大学（英訳名：Institute of Advanced Media Arts and Sciences）の略称である「IAMAS」として表記し調査を実施した。

「今後 IAMAS に博士後期課程が設置されたら進学したいと思うか」との設問に対して、「はい」と回答したのは 21 人であり、回答者の 30.4%を占めている。さらに、自由回答の中には、「「メディア表現」の博士号を取得したい」、「IAMAS の多様なバックグラウンドをもつ先生方からの意見が研究に対して大きな価値を生むと考えている」、「IAMAS では自分のやりたいことを中心に据えて活動できるのが良かった」、「なじみのある環境で成果を出し、博士号を取得したい」、「修士課程で行っていた研究を継続できるだろうから」など、本研究科博士後期課程だからこそ進学に関心があると考えられる意見も見られる。

以上のことから、本研究科修士課程修了生及び岐阜県国際情報科学芸術アカデミー卒業生の範囲に限ってみても、本研究科博士後期課程に進学を希望する者は多く、入学定員 3 人については十分充足可能と見込まれる。

② 本研究科修士課程修了生の進学実績

本学は平成 13 年（2001 年）4 月に開設され、これまでに 282 人の修了生を輩出している。このうち、成績証明書の発行履歴から他大学大学院博士後期課程に進学したことが確認できるのは 17 人である。平成 14 年度に最初の修了生を出してからこれまで 18 期にわたり修了生を輩出してきたが、平均すると毎年 0.83 人となり、ほぼ毎年 1 人は他大学大学院博士後期課程に進学している。また、本学設置の母体となった専修学校の岐阜県国際情報科学芸術アカデミー卒業生（462 人）のうち 6 人についても、他大学大学院博士後期課程に進学したことが確認できている。

前述のアンケート調査結果において、「在学時に博士課程があったら進学していたか」との設問に対し、「はい」と回答したのは 27 人であり、回答者（69 人）の 39.1%を占めている。実績としては、ほぼ毎年 1 人程度の博士後期課程進学者がいるが、本学に博士後期課程が設置されていれば、岐阜県国際情報科学芸術アカデミー卒業生を含め、博士後期課程に進学していた可能性がある修了生は多いと考えられる。

以上のことから、①と同様、本研究科修士課程修了生及び岐阜県国際情報科学芸術アカデミー卒業生の範囲に限ってみても、本研究科博士後期課程に進学を希望する者は多く、入学定員 3 人については十分充足可能と見込まれる。

なお、本研究科修士課程の過去 3 年間の入学者の状況は以下の通りであり、ほぼ毎年入学定員（20 人）を充足している。このことから、本研究科修士課程修了後すぐに、あるいは修了後一旦社会へ出てから、博士後期課程への進学を希望する者が継続的に存在することが期待できる。

本学メディア表現研究科メディア表現専攻修士課程入学者の状況（人）

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
受験者数	33	40	36
合格者数	18	25	25
入学者数	17	23	23

③ 他の国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の志願動向及び入学定員充足率

他の国公立大学大学院美術系研究科（9 研究科）における博士後期課程の過去 3 年間の志願動向及び入学定員充足率を調査した。

9 研究科の平均志願者数は、平成 29 年度が 12.0 人、平成 30 年度は 12.4 人、平成 31 年度は 10.2 人であり、平均志願倍率にすると 1.3 倍、1.2 倍、1.2 倍で推移している。入学定員が比較的多い東京芸術大学大学院美術研究科（入学定員 25 人）と京都市立芸術大学大学院美術研究科（同 16 人）を除く 7 研究科では、平均志願者数は平成 29 年度が 5.3 人、平成 30 年度は 4.8 人、平成 31 年度は 4.7 人であり、平均志願倍率は 1.3 倍、1.1 倍、1.1 倍である。過去 3 年間、平均志願倍率は 1.0 倍を超えており、また、比較的小規模な 7 研究科の平均志願者数は 5 人前後と、本研究科博士後期課程の入学定員 3 人を超えている。

次に、入学定員充足率を見ると、9 研究科の平均充足率は平成 29 年度が 79.8%、平成 30 年度は 62.1%、平成 31 年度は 79.1% であり、入学定員が多い 2 研究科を除く 7 研究科の平均充足率は、平成 29 年度が 84.4%、平成 30 年度は 58.6%、平成 31 年度は 83.7% である。年度により入学者数が定員の半分に満たない大学院もあるが、多くの大学院では定員以上もしくは未充足でも定員の 7 割から 8 割の入学者を確保している。また、比較的小規模な 7 研究科の平均入学者数は、平成 29 年度が 4.0 人、平成 30 年度は 2.8 人、平成 31 年度は 3.6 人である。

以上のことから、本研究科博士後期課程の入学定員 3 人については、定員以上の志願者の確保が十分可能な定員設定であり、継続して定員以上の志願者を確保することにより、中長期的な入学者の確保についても十分可能であると考えられる。

3) 学生納付金の設定の考え方

本学は県立大学であり、国公立大学大学院美術系研究科の学費を踏まえ、本研究科博士後期課程の入学金及び授業料は次の通り設定する。

入学金	授業料
338,000 円	535,800 円

なお、国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の入学金及び授業料は以下の

通りである。

	入学金(円)	授業料(円)	備 考
東京芸術大学大学院美術研究科	338,400	642,960	
東京芸術大学大学院映像研究科	338,400	642,960	
札幌市立大学大学院デザイン研究科	282,000 141,000*	535,800	*は札幌市内居住者
秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科	423,000 282,000*	535,800	*は秋田市内居住者
金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科	423,000 282,000*	535,800	*は金沢市内居住者
愛知県立芸術大学大学院美術研究科	282,000	535,800	
京都市立芸術大学大学院美術研究科	482,000 282,000*	535,800	*は京都市内居住者
広島市立大学大学院芸術学研究科	423,000 282,000*	535,800	*は広島市内居住者
沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科	512,000 282,000*	535,800	*は沖縄県内居住者

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組を全学的に行うこととし、学長、研究科長、入学試験委員会を中心に組織的に取り組んでいく。具体的には以下の取組を予定している。

(ア) 大学院進学説明会の実施

これまで、大学院博士前期課程の学生募集を目的として実施してきた進学説明において、研究科専攻課程変更認可申請手続きと同時並行にて博士後期課程への進学説明も実施する。進学説明会は、東京、名古屋、学内にて年間5回の開催を予定する。本進学説明会において、本学博士後期課程に関心のある方々に、本学の概要を直接説明するとともに、各会場に教授が出向き、入学前の研究指導相談を実施し、研究および修学に関する相談に対応する。

(イ) シンポジウム等の開催

本学では、作品展示とともに研究者を招聘して実施するシンポジウム等を開催している。これらの取組の際に、本学に対する理解を得るとともに併せて本学博士後期

課程の募集広報を計っていく。

(ウ) オンラインによる情報提供の充実

本学博士前期課程からの学生確保のみならず、遠隔地在住の日本人学生や留学生の確保に努めることとし、本学への訪問が容易でない入学希望者が安心して応募できるよう、インターネット、SNS等による情報発信や、英語による各種資料及び情報提供などの充実に努める。遠隔地在住の日本人学生及び海外の方々がオンラインでの面談を希望された場合には、オンラインでの教授との面談を実施する。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本研究科博士後期課程では、「メディア表現」を基軸とし実社会と隣接するプロジェクト研究を学生自らが企画・運営・遂行しながら徹底的な言語化に挑戦し、博士論文を完成させていく経験を通じて、時代を主導する新しい活動スタイルの研究者を養成することを目標としている。実社会の中で具体的なプロジェクトを企画立案し、それを実践していくことで、既存の領域を横断しながら再組織化し、新たな研究領域を切り開いていくことを目指している。本研究科博士後期課程を修了した者は、旧来の研究機関だけではなく、多様な社会的ポジションで実力を発揮し、地域社会のみならず世界においても活躍が期待される。

より具体的には、次のような育成像である。

ア （研究者）デザインとアートを融合させた実践的な調査・制作と発見的な批評・論考をおこない、個人の身体性や創造性、社会の交換性や持続性、相互作用性など考察する。またメディアのもたらす影響を通じて、メディアとデザイン及び社会との関係を俯瞰しながら研究する。

イ （芸術家）音楽・映像・現代美術・舞台芸術などの領域を越え、現代社会における芸術そのものの在り方や意味を統一的に研究する。

ウ （実務家）領域横断的な新たな新規事業の立案や、実世界とメディアに対してセンシングや機械学習などを用いて提案し、メディア表現の在り方や実践的な手法を研究する。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学では、これまで本学で醸成された様々な成果・手法を、県内企業へと還元する取組を実施してきた。

2018年からは、県内企業を対象とした短期プログラム「岐阜イノベーション工房」を実施している。この事業は、本学においてアート、デザイン、工学、社会学など多様な分野の教員と学生が培ってきた、デザイン思考やシステム志向、IT、IoT、視覚的ブレインストーミング等に関するノウハウを、ワークショップを通じて県内企業の方々に習得していただくとともに、新規事業創出や組織活性化等を目的として実施している。参加企業からは、最新の知識を得られるとともに、イノベーションの考え方や取組方法などについて習得することができたと好評を得ている。博士後期課程設置後には、博士後期課程の学生もこれらのプログラムに参加し、県内企業への新たな刺激をもたらすことが期待される。

博士後期課程では、学生自らが社会との接続を踏まえたプロジェクトを企画立案し、実践しながら研究を進めることとなる。(プロジェクトベースドラーニング (PBL)) これにより、地域や県内企業が抱える課題解決等への寄与が期待できる。

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料リスト

- 資料 1 : 国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の入学定員
- 資料 2 : 情報科学芸術大学院大学、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業生へのアンケート調査結果 (2018.9 実施)
- 資料 3 : 博士後期課程への進学状況・進学予定
- 資料 4 : 国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の志願動向及び入学定員充足率

資料1 国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の入学定員

	博士後期課程 入学定員(人) a	基礎となる修士課程(博士 前期課程)入学定員		入学定員比率 (%) $a/b \times 100$
		入学定員(人) b	(専攻数)	
東京芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻	25	198	(8 専攻)	12.6
東京芸術大学大学院 映像研究科 映像メディア学専攻	3	64	(3 専攻)	4.7
札幌市立大学大学院 デザイン研究科 デザイン専攻(D)	3	18	(1 専攻)	16.7
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 複合芸術専攻(D)	2	10	(1 専攻)	20.0
金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 美術工芸専攻(D)	7	37	(5 専攻)	18.9
愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻(D)	5	40	(1 専攻)	12.5
京都市立芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻(D)	16	58	(6 専攻)	27.6
広島市立大学大学院 芸術学研究科 総合造形芸術専攻(D)	6	30	(1 専攻)	20.0
沖縄県立芸術大学大学院 芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(D)	3	18	(3 専攻)	16.7
平均	7.8	52.6	—	16.6
平均(7研究科) ^注	4.1	31.0	—	15.6
情報科学芸術大学院大学 メディア表現研究科 メディア表現専攻(D)	3	20	(1 専攻)	15.0

注)東京芸術大学大学院美術研究科と京都市立大学大学院美術研究科を除く7研究科の平均

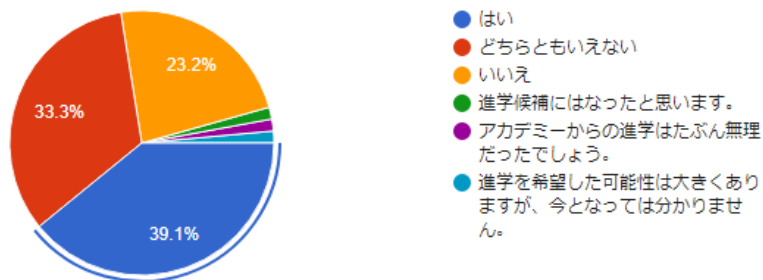
資料2 情報科学芸術大学院大学、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業生へのアンケート調査結果(2018.9実施)

卒業生数744名※(大学院修了生282名、アカデミー卒業生462名(ラボ科94名、スタジオ科368名))のうち、メール送信数458名、回答数69名

在学時に博士課程があったら進学していましたか？

69件の回答

はい：27名（総数：69名中）



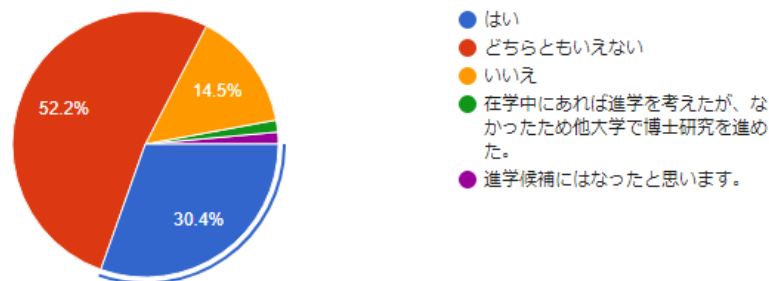
■「今後IAMASに博士課程が設置されたら進学したいと思いますか」に回答した人のコメント

- 国内で複数の領域に跨った分野の研究で博士を取ることができるところは非常に限られ、必然的に指導教員も全国的に限られるので、その幅が増えるのは日本全体にとって重要と考えられるため。
- アカデミックキャリアを作るにはドクターが必須なと、単純に日本で「メディア表現」の博士号取得などというライセンスを取得してみたいという好奇心。もちろん研究を引き続きやりたい、という興味関心があってこそ、で研究好きだからです。
- キャリアを増したい、専門的な教育を受けたい。
- IAMASの多様なバックグラウンドをもつ先生方からの意見が研究に対して大きな価値を生むと考えている。また表現活動・研究の両立が可能な研究機関が他にないため。
- 自分の学歴キャリアや研究は、今後できる機会があれば臨みたい。
- 他の大学院ではゼミの研究テーマに合うように、自分のやりたいことを少し変形させるが、IAMASでは自分のやりたいことを中心に据えて活動できるのが良かった。自分でテーマを定めるのは大変だが、やりたい研究をやる大学院は魅力的だと思う。
- 卒業後の取り組みを通じ、より専門性を高めるとともに、研究として整えたいため。
- 学位があったほうがよい。
- 研究分野や指導教員の専門性が自分の志向に合致すれば検討したい。これからのメディアアートや芸術と科学の今後の在り方についてより柔軟で深く探求できる可能性を感じられれば進学したい。
- なじみのある環境で成果を出し、博士号を取得したいと考えるためメール
- 卒業後、時間も経ちました。現在私はアカデミズムの外に生活の基盤を置いて生活しています。幸いその中で自分がこれからも追求したい表現の世界はそれほど大きく変わらずにありますが、人生のタイミングとしてこれから博士課程の取得に動き出すためには少し年齢も高くなりすぎているように感じています。しかしながら、完全にその可能性を絶っているとも言えず、良い環境の中で一時集中して研究を進める事が、今後の人生と求める表現の追求のためにどうしても必要だという時期があったとして、それが現在の環境を総合的に豊かにする可能性があるならば積極的に進学を考えるとと思います。
- 人文科学の分野全体が縮小傾向にある今、その分野で教員として働くつもりなら必要。博士課程がなければ権威を評価しない人も少なくないだろう。
- 修士課程で行っていた研究を継続できる(できた)だろうから。
- 既に他の大学の博士に進学してしまつたので、IAMASの博士課程の進学は難しいかもしれませんが、IAMASには博士課程があったほうが良いと思います。
- 修士課程で生み出した芽を博士で育て自走できる期間として位置付け、社会に容易に回収されない強さを持ったIAMAS生の育成が求められると思います。
- IAMASに入学して得たことの一つは、常にあるいは定期的にインプットの時間を持たなければ視野は広がらないしアウトプットもないということでした。それほど入学のbefore afterで私の意識は変わりました。ですから、そのインプットの時期が必要で、かつ必要なインプットの範囲がある程度固まっていれば、先生方に相談し、博士課程に進学させていただきたいと思います。
- 学びたい意欲はまだまだあるが、あえて博士にいくとすれば、カリキュラム内容はともかく、アカデミックな職場で働き続けるには博士の資格があったほうが有利だという現実的な理由もある。もし取るとするならば、コストも掛かるし、海外も含め様々な選択肢があるわけなので、教員やカリキュラムを精査して判断する。
- 非常に興味があるのですが、現在海外在住のため、難しいです。

今後IAMASに博士課程が設置されたら進学したいと思いますか？

69件の回答

はい：21名（総数：69名中）



※2015.12のメールアカウントの移行手続きが完了しなかった者が286名あるほか、調査用を使用したアカウントを常時使用しない者が確認されており、卒業生全員への調査とはなっていない。

2012.3に廃止されたアカデミーは、1996年に欧州型の専修学校「岐阜県国際情報科学芸術アカデミー」として設立され、2001年には大学院のラボ科を改組し、情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科が誕生しており、当時のラボ科には大学院修了者も散見されたことから、アカデミー卒業生もアンケート調査の対象とした。

はじめに

IAMAS関係者のみなさま

IAMASでは2019年度より、通常は2年間の修士課程を1年間に凝縮した修士課程「社会人短期在学コース」を新設します（

https://www.iamas.ac.jp/news/201803_intensive_course_for_persons_with_work_experience/）。また、数年中に博士課程を開講すべく準備を進めております。

これらを進めるにあたり、その潜在的な需要がどの程度あるのかを本学が把握するとともに岐阜県および文部科学省に対して示す必要があり、そのためのデータを収集することを目的としたアンケートの実施に至りました。

回答していただいた内容は厳重に管理し、個人名が特定されるような使用はいたしません。お手数をおかけいたしますが、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

*必須

お名前

回答を入力

最後の在籍校 *

最後に在籍した（または在籍中の）学校を教えてください

- 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー [IAMAS]
- 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
- 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 在籍中

1/5 ページ

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 情報科学芸術大学院大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

はじめに

*必須

進学先

IAMAS卒業／修了後、他の学校に進学されましたか？ *

- はい
- いいえ

学校名および研究科名

進学された場合、差し支えなければ、進学先について教えてください。

回答を入力

3/5 ページ

戻る

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 情報科学芸術大学院大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

はじめに

*必須

博士課程に関する質問

在学時に博士課程があったら進学していましたか？

※卒業生のみ回答してください

- はい
- どちらともいえない
- いいえ
- その他:

今後IAMASに博士課程が設置されたら進学したいと思いますか？ *

- はい
- どちらともいえない
- いいえ
- その他:

その理由

差し支えなければその理由を教えてください。

回答を入力

4/5 ページ

戻る

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 情報科学芸術大学院大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

はじめに

おわりに

ご意見・ご要望など

IAMASの今後に期待することなどがあればお聞かせください。

回答を入力

その他

このアンケートに関して何かお気づきの点があればお聞かせください。

回答を入力

5/5 ページ

戻る

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 情報科学芸術大学院大学 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

資料3 博士後期課程への進学状況・進学予定

○情報科学芸術大学院大学博士前期課程修了生の年度別博士後期課程進学状況

入学年	人数	進学先	備考
2005年（平成17年）	1	神戸大1	
2006年（平成18年）	3	岐阜大2、リソツ工芸大1	修了直後2
2007年（平成19年）	1	慶應大1	
2008年（平成20年）	1	多摩美1	修了直後1
2011年（平成23年）	1	名古屋大1	修了直後1
2012年（平成24年）	1	東京芸大1	
2013年（平成25年）	2	筑波大1、京都市芸1	修了直後1
2015年（平成27年）	2	京都市芸1、慶應大1	修了直後1
2016年（平成28年）	1	筑波大1	修了直後1
2018年（平成30年）	3	東京芸大1、大阪大1、慶應大1	
2019年（令和元年）	1	慶應大1	修了直後1
合計	17		

○岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業生の年度別博士後期課程進学状況

入学年	人数	進学先	備考
2004年（平成16年）	1	大阪芸大1	
2007年（平成19年）	1	東京大1	
2009年（平成21年）	1	京都市芸1	
2014年（平成26年）	1	慶應大1	
2018年（平成30年）	2	京都市芸1、名工大1	
合計	6		

○修士課程在学生の博士後期課程進学調査

博士後期課程進学検討者 18.2%（在学生20名／回答者数11名）

資料4 国公立大学大学院美術系研究科博士後期課程の志願動向及び入学定員充足率

	入学定員 a	志願者数(人) b			入学者数(人) c			志願倍率(倍) b/a			定員充足率(%) c/a×100		
		H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31	H29	H30	H31
東京芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻(D)	25	51	57	47	22	27	22	2.0	2.3	1.9	88.0	108.0	88.0
東京芸術大学大学院 映像研究科 映像メディア学専攻(D)	3	6	6	3	2	3	2	2.0	2.0	1.0	66.7	100.0	66.7
札幌市立大学大学院 デザイン研究科 デザイン専攻(D)	3	3	3	4	2	0	2	1.0	1.0	1.3	66.7	0.0	66.7
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 複合芸術専攻(D) ^{注1}	2	—	—	2	—	—	1	—	—	1.0	—	—	50.0
金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 美術工芸専攻(D)	7	8	6	5	7	5	3	1.1	0.9	0.7	100.0	71.4	42.9
愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻(D)	5	2	6	9	2	4	8	0.4	1.2	1.8	40.0	80.0	160.0
京都市立芸術大学大学院 美術研究科 美術専攻(D)	16	13	13	12	7	6	6	0.8	0.8	0.8	43.8	37.5	37.5
広島市立大学大学院 芸術学研究科 総合造形芸術専攻(D)	6	8	5	7	8	4	6	1.3	0.8	1.2	133.3	66.7	100.0
沖縄県立芸術大学大学院 芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(D)	3	5	3	3	3	1	3	1.7	1.0	1.0	100.0	33.3	100.0
平均(9研究科)	7.8	12.0	12.4	10.2	6.6	6.3	5.9	1.3	1.2	1.2	79.8	62.1	79.1
平均(7研究科) ^{注2}	4.1	5.3	4.8	4.7	4.0	2.8	3.6	1.3	1.1	1.1	84.4	58.6	83.7

注1) 秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科博士後期課程は平成31年4月開設

注2) 東京芸術大学大学院美術研究科と京都市立大学大学院美術研究科を除く7研究科の平均

大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>)を加工して作成